

令和6年9月18日

千葉県農林総合研究センター長

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が8月下旬～9月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。



千葉県総合防除計画(令和6年3月版)

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (8月下旬～9月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	寄生幼虫数：並【0.20頭/0.87頭】 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	22
	イモキバガ	並	寄生幼虫数：並【0.20頭/1.21頭】 被害葉率：並【7.60%/6.61%】 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	-
夏秋トマト	すすかび病	多	発病株率：多【17.20%/8.61%】(+) 気象予報：降水量多(+)日照時間並か少(+)	31
	アザミウマ類	やや少	成幼虫寄生株率：やや少【0.00%/5.69%】(-) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	32
	黄化葉巻病	多	発病株率：多【16.20%/1.48%】(+) タバココナジラミ成虫寄生株率：多【46.80%/4.82%】(+)	31
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率：多【46.80%/4.82%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	33
	オンシツコナジラミ	やや少	成虫寄生株率：やや少【2.00%/9.19%】(-) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	33
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	発病度：少【0.00/1.88】(-) 気象予報：気温高(+)降水量多(+)日照時間並か少(+)	33
	ネギアザミウマ	少	成幼虫寄生株率：少【5.60%/37.10%】(-) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	34
	ネギハモグリバエ	少	被害度：少【0.50/7.22】(-) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	35
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数：多【6.98頭/1.58頭】(+) 被害株率：多【14.00%/0.40%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量多(-)	46

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (8月下旬～9月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
野菜・花き共通	コナガ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.07頭/0.30頭】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	45
	ハスモンヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数：やや多【17.61頭/12.32頭】（+） 100葉当たり寄生幼虫数(サツマイモ)：多【0.60頭/0.08頭】（+） 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.04%】 幼虫寄生株率（サトイモ）：多【32.00%/4.54%】（+） //（夏秋トマト）：並【0.00%/0.04%】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	46
	タバコガ類	多	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：やや多【4.63頭/2.41頭】（+） タバコガ：やや多【1.50頭/0.87頭】（+） 幼虫寄生株率（夏秋トマト）：多【0.80%/0.16%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	45
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【8.20%/3.21%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	28
	カメムシ類	やや多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 8月予察灯誘殺数：並【59.0頭/47.0頭】 8月フェロモントラップ誘殺数：多【27.70頭/5.85頭】（+）	28

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 黄化葉巻病・コナジラミ類（夏秋トマト）
令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。
- (2) シロイチモジヨトウ（秋冬ネギ）
令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」も参照する。
- (3) タバコガ類（野菜・花き共通）
令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発生に注意」も参照する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは移植後の水稻を食害し、減収させる。本種は寒さに弱い、水田内や水路等で越冬する貝があり、被害の目立つ年が増えている。本年は、スクミリンゴガイの被害株率が過去 11 年で最も高く（図）、九十九里地域を中心に、大きな被害を受けた水田が散見された（写真 1）。

スクミリンゴガイは、薬剤による防除だけで被害を防ぐことが難しく、また、被害の多くは、水田の水深の深い場所に集中して発生することから（写真 2）、浅水管理や秋冬期の整地等の耕種的対策、さらに耕うんによる物理的対策を組み合わせた「総合防除」を講じる必要がある。

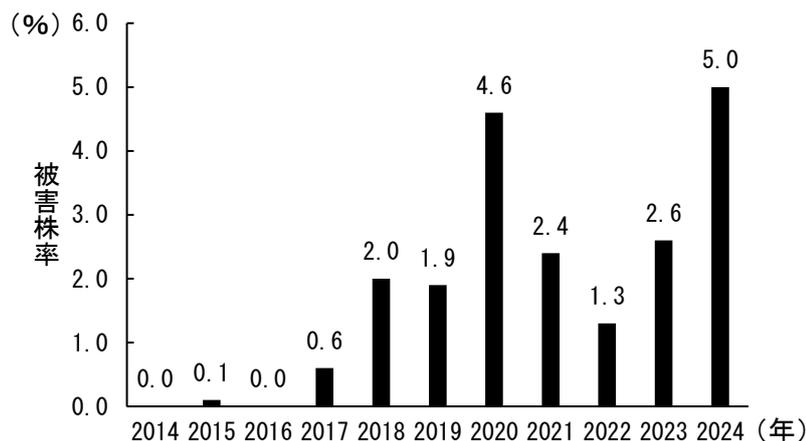


図 千葉県におけるスクミリンゴガイの被害株率（6月上旬）の推移



写真 1 甚被害が発生した水田



写真 2 隣接した著しく被害程度の異なる水田

左：均平処理し、被害の少ない水田

右：凹凸があり、深い部分で被害の大きい水田

〈防除対策〉

1 秋冬期の防除対策

(1) ほ場の均平化

冬期にフロントローダーや整地キャリア等を使用し、土を高いところから低いところへ移動させ、均平化を図る（レーザーレベラーによる均平化が図れればなお良い）。

(2) 冬期の耕うんによる貝の破碎

冬期にロータリー耕をすることで、本種を物理的に破碎するとともに寒気にさらす。回転速度PTO 2速とし、時速1.4km以下で耕うんすることで、殺貝効果は上がり、耕うん回数を重ねるごとに貝の生存率は低下する。また、殺貝効果が最も高いのは、地面が固く締まっている1回目の耕うんであるため、初回の耕うんは可能な限り回転は速く、走行は遅く行う。

(3) 水路の泥上げ

常に水や泥のある水路は冬でも暖かく、本種の越冬に最適な場所である。1～2月に泥上げし、掘り上げた泥は、ほ場に入らないように薄く広げ、貝を寒風にさらす、または潰すなどして生き残らないように処理する。

2 栽培期間中の食害防止対策

(1) 浅水管理

本種は水中でしか食害できず、水深が浅いと活動が抑制されるため、食害を受けにくくなる。5葉期（田植え後約3週間）まで、水深を4cm以下（理想は1cm）に維持する。

(2) 薬剤による防除

本種の被害が発生する前の苗移植時に、薬剤を使用する。使用後、確実な効果を出すため、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を保ち、魚類、甲殻類等に影響が出ないように7日間は落水、かけ流しを控える。また、食害防止効果を持つ薬剤を使用後に、食毒による効果のある薬剤を使用すると、十分な効果が得られないため注意する。

表 スクミリンゴガイに対する主な防除薬剤（令和6年9月11日現在）

IRAC コード ※1	薬剤名	使用量	使用時期/使用回数 ※2	効果
14	パダン粒剤4	60～100g/箱	は種前または移植当日/1回	食害防止
		4kg/10a	収穫30日前まで/6回 ※3	
	スクミハンター	1～2kg/10a	収穫45日前まで/3回	食害防止
—	スクミンベイト3	2～8kg/10a	発生時/— ※4	殺貝(食毒) 食害防止
	スクミノン	1～4kg/10a	収穫60日前まで/(メタアルデヒドを含む農薬)2回	殺貝(食毒) 食害防止

※1 IRACコードとは、殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤は連用しない。

14：ネライストキシン類縁体

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、使用前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※3 パダン粒剤4の使用回数は苗箱処理の回数を含む。

※4 スクミンベイト3の有効成分はリン酸第二鉄であり、有機農産物の日本農林規格で使用が認められており、化学合成農薬の成分回数にカウントされない。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

3 その他

(1) 未発生ほ場への拡散防止

本種の発生ほ場から、トラクター等を移動させる際は、爪やアタッチメントをよく洗浄し、未発生ほ場に持ち込まないように注意する。

(2) コンバインの操作方法の見直し

収穫時のコンバインの切り返しが、田面にV字模様状の凹凸を生み出す場合があるため、コンバインの操作方法（切り返しを穏やかにする等）を見直し、ほ場の均平化に努める。

Ⅲ その他の情報

ビワを加害するチャバネアオカメムシについて ～来年は中程度の発生が予想されます～

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測し、二重袋^(注1)の手配など、早めの防除手段の選択に活かすことが重要である。

そこで、チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル^(注2)を用いて、2025年4～7月の南房総地域におけるチャバネアオカメムシの誘殺数を予測した結果、来年の発生量は本年よりも少なく、中程度^(注3)の予想となった(図)。

ただし、果樹カメムシ類が飛来する量や時期は地域やほ場により差があるので、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生量に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁が抑制される効果がある。

注2：本予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所の調査による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いて次年度の越冬成虫数を予測する式で、千葉県農林総合研究センターが開発した（詳細は https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h27_38-2.pdf を参照）。

注3：予測モデルによる南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量（4～7月）は、トラップ当たりの誘殺数が1～100頭未満の場合は少発生、100～1,000頭未満の場合は中程度の発生、1,000頭以上では多発生と予想される。

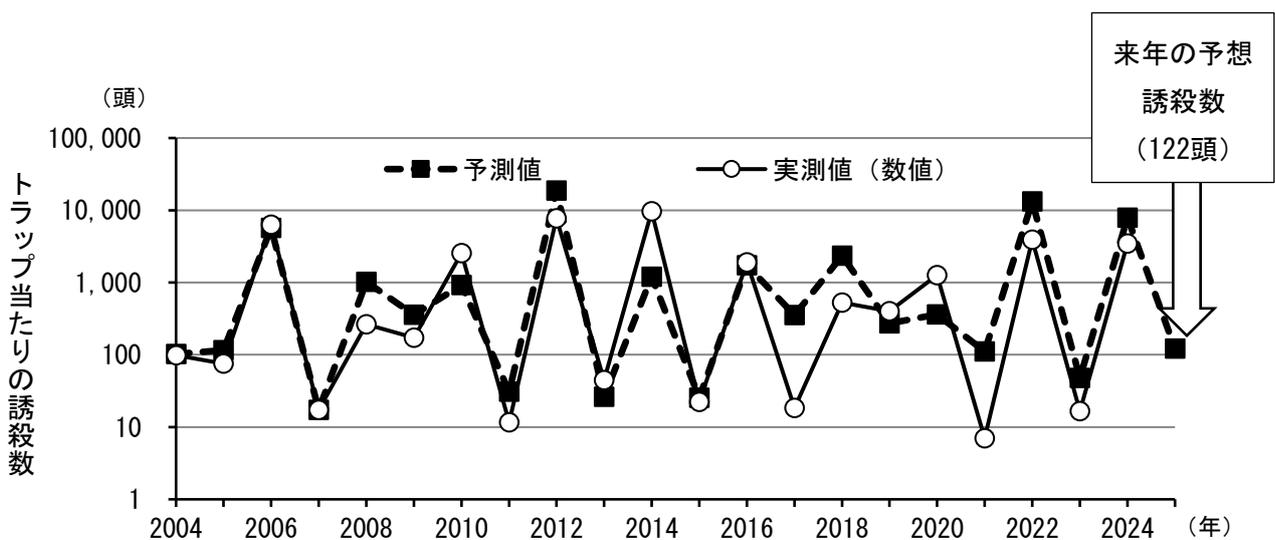


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・果樹・夏秋トマト：8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			今年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.01	0.08	0.02	
	紋枯病	発病度	4.50	2.37	2.00	
	縞葉枯病	発病株率(%)	0.69	0.88	1.39	
	ごま葉枯病	発病株率(%)	15.37	12.65	11.94	
	稲こうじ病	発病株率(%)	0.00	0.30	0.06	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	2.23	0.30	0.13	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.11	0.05	0.23	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害苞数	0.00	0.00	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.91	2.47	0.04	
	トビロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	27.90	29.95	51.39	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	134.99	100.62	146.87	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.41	0.91	0.68	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.34	0.20	0.03	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.77	0.23	0.23	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	0.05	0.16	
ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.06	0.02	0.00		
アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.02	0.03		
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.59	0.52	0.35		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.60	0.08	0.00	
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.20	0.87	0.40	
	イモキバガ	100葉当たり寄生幼虫数	0.20	1.21	0.00	
		被害葉率(%)	7.60	6.61	2.40	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	褐斑病	発病度	23.70	25.85	13.40	
	黒渋病	発病度	0.00	0.45	0.10	
	白絹病	発病株率(%)	4.50	2.69	2.10	
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.18	1.00	
		発病果率(%)	0.00	0.00	0.00	
		果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	17.20	8.61	9.50	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	16.20	1.48	4.13	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.40	0.00	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.80	0.16	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	2.00	9.19	15.50	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	46.80	4.82	16.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.91	0.00		
アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	5.69	0.00		
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	1.88	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	11.00	26.06	12.70	
		成幼虫寄生株率(%)	5.60	37.10	11.60	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	14.00	0.40	3.20	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.24	0.80	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.50	7.22	8.80	
サトイモ (山武、印旛、君津)	疫病	発生程度	20.59	18.88	14.64	
	汚斑病	発病葉率(%)	11.14	14.08	12.29	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	11.15	12.43	5.93	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	32.00	4.54	8.57	
	ハダニ類	成虫寄生程度	4.10	11.86	1.71	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.21	0.72	0.26	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.06	0.06	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	3.24	2.10	0.29	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.62	0.32	0.06	
	吸ガ類	被害果率 (%)	0.08	0.08	0.09	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.92	0.18	0.73	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.28	0.20	0.48	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.09	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	8.20	3.21	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.60	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	1.20	0.37	0.00	

トラップ月間誘殺数 (8月) *種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	3.9	20.8	1.0	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	4.1	0.0	千葉が欠調
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	のため、千
	ヒメトビウンカ	〃	13.1	22.3	18.9	葉を除いた
	ツマグロヨコバイ	〃	7080.0	993.7	316.0	2地点の平
	フタオビコヤガ	〃	52.3	29.5	12.1	均値
	ニカメイガ	〃	7.7	9.8	57.1	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	154.4	45.6	17.4	
	クモヘリカメムシ	〃	52.3	20.3	57.6	
	ホソハリカメムシ	〃	8.7	2.5	4.4	
	シラホシカメムシ類	〃	0.5	-	0.0	
	イネカメムシ	〃	752.4	27.6	46.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	26.6	25.4	46.0	
アカスジカスミカメ	〃	111.8	116.8	119.5		
ミナミアオカメムシ	〃	97.3	44.5	10.2		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	25.2	18.8	24.2	頭/月
	クサギカメムシ	〃	25.2	24.5	56.1	
	ツヤアオカメムシ	〃	8.7	3.7	13.5	
	カメムシ類	〃	59.0	47.0	93.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.27	2.16	1.67	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	2.33	15.63	5.32	
	コナガ	海匝	0.07	0.30	0.05	
	ハスモンヨトウ	県内全域	17.61	12.32	10.80	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	6.98	1.58	3.12	
	オオタバコガ	県内全域	4.63	2.41	4.69	
	タバコガ	県内全域	1.50	0.87	1.96	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.02	1.28	1.65	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.04	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.06	1.29	1.65	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.07	0.10	0.01	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.45	0.57	0.35	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.52	0.67	0.36	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	26.69	5.73	0.56	頭/日
	ツヤアオカメムシ	県内全域	0.41	0.05	0.01	
	クサギカメムシ	県内全域	0.60	0.07	0.01	
	カメムシ類	県内全域	27.70	5.85	0.58	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	県内全域	0.23	0.12	0.02	

○気象予報

9月12日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

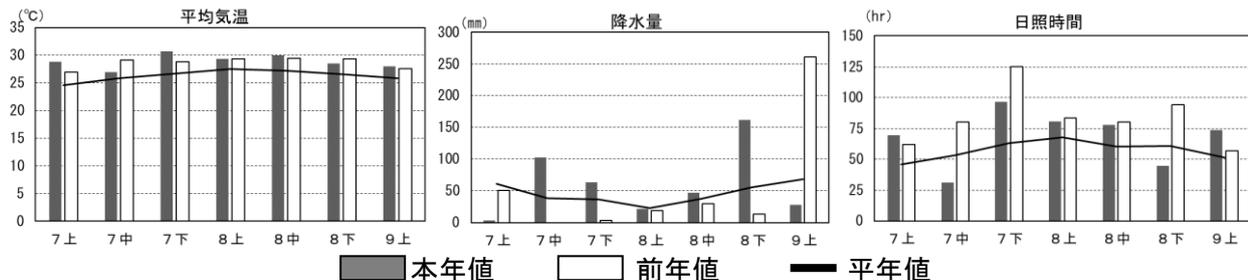
出典：気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(9月14日～10月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	21.5	21.6	21.5
降水量(mm)	233.4	272.5	252.4
日照時間(hr)	121.8	137.9	133.4



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は10月17日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

